

## 令和6年度第2回 西宮市協働事業提案審査会 会議録(要約)

日 時：令和6年5月9日（木）9時00分から11時10分

場 所：西宮市役所第二庁舎6階 B601会議室

出席者：【委員】伊丹 康二（会長）、西明 直子（副会長）、藤原 純一、岡田 純一、齋藤 広明

【事務局】市民企画課 課長 河内 紀子、係長 武光 真一、主査 黒木 千聖、主査 石田 真莉子

### 〈第1部 プレゼンテーション〉公開

#### ○開会

市民企画課長より挨拶。

#### ○事務局

1 提案につき13分を予定。提案団体のプレゼンテーションで約3分、委員からの質疑に約10分。関係課職員への質問も可能。会長進行で開始。

#### 5番目の事業「グリスタチャレンジ～未来のミュージックスターは君だ！」について

##### ○会長

提案団体から、事業概要について説明をお願いします。

→提案団体（こうしえんまちなかフェス実行委員会）から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

##### ○委員

- ・音楽と人がつながり、それがまちづくりにつながるのはとても良いこと。
- ・スポットではなく、継続していくことが大事。この事業をどのように継続・発展していくのかという考えをもう少し詳しくお聞かせ願いたい。

##### ◇提案団体

- ・まちのみんなが、このまちから育った人たちと一緒に育てるという図式がすごく大事。「まちの中から発掘する」「まちのみんなが育てる」という両方のキャッチボールができることがポイント。

##### ○委員

- ・地元発信の「〇〇甲子園」という若者応援の企画であり、感銘を受けた。
- ・継続性の観点から、今後、協賛ないしは活動資金として、どのようなオプションが考えられるか。

##### ◇提案団体

- ・例えば、スポーツとコラボレーションした音楽や、コンテストで優勝者の曲が企業のタイアップに決まることにより、その企業から協賛金を得られたらと考えている。今回の取組が企業と結びついていけば、催しの規模も大きくしていくことができる。

##### ○委員

- ・関係課にお聞きしたいが、場所の提供は可能か。

##### ▽関係課（文化スポーツ課）

- ・情報提供は可能だが、費用負担は難しい。

○委員

- ・3,000人を集客する力はすごい。雨天時のことは考えておいた方が良い。

◇提案団体

- ・イベント当日参加できない人にも、それまでの期間に影響を与えられるよう、SNSやインターネットの活用を視野に入れている。屋内での開催についても、今後考えたい。

○会長

- ・協働事業ということから、市側も積極的に一緒に汗をかくことが大事になってくる。子供たちをいかに発掘するかという役割を市もある程度担えるのでは。市の考えは。

▽関係課（文化スポーツ課）

- ・報告書に記載のとおり、高校や大学等への情報提供というような協力はできる。

○会長

- ・小・中学校の所管が異なるのは理解しているが、それなりのレベルに達していなくても参加できるものなので、子供たちの音楽会のようなものの延長とつなぐことも必要。

◇提案団体

- ・人と人をつなぐことに関しては、私たちにはまだまだ情報やノウハウがない。その部分は市と組むことによって教えてもらいたい。

6番目の事業「ままもばばも地域とのつながりを深め、地域で一緒に子育てする事業」について

○会長

提案団体から、事業概要について説明をお願いします。

→提案団体（特定非営利活動法人にしのみや次世代育成支援協会）から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○委員

- ・産前のケアや情報提供は非常に重要。その意義はあるが、昨年度の結果として、1年を通した父親のイベントの参加人数は6人。この実績をふまえた改善点や今年度の目標人数をお聞きしたい。

◇提案団体

- ・昨年度の反省点として、土日の開催ができていなかった。それが父親の参加が少なかった要因の一つだが、「お茶の間ぷちだがしやさん」という常設の店舗があることで、後日母親と一緒に父親が来るというつながりが生まれている。参加人数は少なくとも、つながるという目的は達成できたと考えている。

○委員

- ・市との協働の観点から考えると、母子手帳を配布する夫婦全員を母数としたうえで、どのように接点を創造するか議論する必要がある。「マザークラスでのチラシの配布」の時点で、父親を取りこぼしている。
- ・父親である私自身が、この駄菓子屋を知らなかった。情報が届く仕組みを市との協業でできると良い。

○委員

- ・男性に井戸端会議的なものは難しい。得意・不得意も十人十色。より幅を広げてワークショップの内容を充実させてほしい。

◇提案団体

- ・父親同士で積極的につながっている人はごく一部と感じている。父親の視点を聞きながら、これから広げていきたい。

○委員

- ・この事業の対象者は、全部大人か。

◇提案団体

- ・大人も子供も来る。

○委員

- ・チラシからは子供がほとんど見えてこない。

◇提案団体

- ・ワークショップは必ずしも大人が対象ではなく、子供もたくさん参加している。
- ・本事業をきっかけとして、ずっとつながり続けるという長期スパンの関係性が大切であり、親にとっても子供にとっても安心できる場所という位置づけになればいいと考えている。
- ・チラシからは見えにくいかもしれないが、駄菓子屋には子供のほうが多く来ている。

○副会長

- ・地域につながる手立てとして、色々と発信していくことで、親も子供も安心して訪れることができる場になる。まずは信頼関係が大切。

○会長

- ・関係課に質問。協働の観点から、市にしかできない関わり方はあるか。

▽関係課（地域保健課）

- ・駄菓子屋でのイベントは、会場の広さの問題もあり、あまり広めると受け入れが困難とのこと。まずは周辺から、入口は母親になるが、また父親と行ってみようという形になることを考えている。順を追って、観察しながら進めていきたい。

7番目の事業「**tomoni**=ともにあるこうプロジェクト」について

○会長

提案団体から、事業概要について説明をお願いします。

→提案団体（特定非営利活動法人 a little）から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○委員

- ・事業を持続可能性のあるものにする手段として、自走できる仕組みづくりが大事。提案書に記載されている「企業が参加しやすい仕組みづくり」について、具体的な考えはあるか。

◇提案団体

- ・この事業の中で行うものではないが、市民団体の活動について、このようなことに支援してほしいとアピールする場を持ち、企業からの支援や協働をつなぎ合わせる仕組みを作りたいと思っている。

○委員

- ・西宮市には、子育ての施設やイベントは、資源として潤沢にあるが、それらを一元化し、情報をどう届けるか、どうつなぎ合わせるかというところが課題だということについては、非常に共感する。その中でも特に大事なものは、子育て支援者の交流会と対象者のリスト化。いかにみんなで情報を集めて、リストを良いものにしていくか。顧客側のプラットフォームを作ることによって、協賛や今後のコラ

ボレーションが非常に強まる。

◇提案団体

- ・親子フェスタでは、地域の中でどのような困りごとがあるのかを地域ごとの支援団体が共有し、たくさんの支援者で支えていくことをイメージして開催したい。

○会長

- ・今回、3年目の応募だが、来年度以降、親子フェスタの開催や子育てマガジンの発行は継続できそうな見込みか。

◇提案団体

- ・この2年間を含め、これまでの活動でつながってきた支援者同士は熱い思いを持っている。私たちと新しく子育てをしながら活動を始める団体が手をつなぐことで、持続可能なものになると考えている。

○委員

- ・関係課にお聞きしたい。公ではない市民団体が自走できるような仕組みができてきている。逆に言うと、改めてそのような団体と市が協働する必要性はあるのか。

▽関係課（子育て総合センター）

- ・市として把握できていない支援者の方々がたくさんおられ、把握に努めている。市内4か所に子育てコンシェルジュを置いており、その仕事として地域資源の開拓がある。直接一緒に手を組む機会が少なくとも、支援を必要としている人に活動団体等を紹介することはできる。

8番目の事業「初開催から25年、地域に広がれプレーパーク」について

○会長

提案団体から、事業概要について説明をお願いします。

→提案団体（にしのみや遊び場つくろう会）から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

○委員

- ・子供にとって遊びは大事なもので、このような場は必要不可欠だと思う。
- ・収支予算書について。講師謝礼が5万円で、講師の旅費が1万円。専門家を呼ぶには謝金も交通費もかかる。遠くから来られるようだが、この人でなければ駄目なのか。西宮には、適任者がいないのか。人材発掘・育成の面もある。

◇提案団体

- ・今の西宮にはいない。誰かはまだ決まっていないが、プレーパークの重要性について理論的に話してくれる人を連れてきたい。

○副会長

- ・25年ということで、かつて遊んでいた子供がプレーリーダーになっているのか。

◇提案団体

- ・「何十人います」とは言えないが、実際にいる。そういった子供が育てば良いとは思っている。

○会長

- ・地域には、例えばボーイスカウトなど比較的親和性の高そうな団体があると思うが、そのような団体とのつながりについて考えは。

◇提案団体

- ・規律を重んじるボーイスカウトと、自由度の高い遊びの中から子供たちの育ちを見つめる、見守ると

というような私たちの立場は少し違う。だからといって協働しないわけではない。協働というより、一緒に楽しいことはしましょう、という考えである。

○委員

- ・私にも小さい子がいて、情報収集しているつもりだが、昨年度のイベントの情報を知らなかった。情報を得るためにはどうすれば良いのか。

◇提案団体

- ・そのあたりが協働事業の意味だと思う。協働事業や教育委員会の名義後援があれば、公共施設へチラシを配架してもらえる。SNSでも情報発信はしている。

〈第2部 審査〉非公開

以 上